

ももたろう基金～「平成30年 7 月豪雨災害支援基金」～

【第 10 次緊急助成(子ども支援)】助成金申請書

【団体情報に関すること】

※本用紙に記載の個人情報は、本事業の実施にのみ使用します。

ふりがな	がくまび		
団体名称	がくまび		
代表者職名	代表	ふりがな	まつもとたつみ
		代表者氏名	松本 竜己 印
ふりがな			
団体住所			
電話番号		F A X	
設立年もしくは活動年数	2019 年		
スタッフ数	有給スタッフ _____ 名・無報酬スタッフ _____ 16 名・ボランティア等 _____ 名		
団体HP(あれば)			
FBページ(あれば)	がくまび		
CANPAN登録 (原則必須)	あり (星1つ) 【団体ID: 1581349543】		

※申請に関する事務担当連絡先(団体と異なる場合・電話番号については携帯電話など出来る限り直接本人につながるもの)

担当者役職名(必須)	副代表	ふりがな	てらおあかね
		担当者氏名	寺尾朱音
郵送物送付先住所			
担当者電話番号 (極力携帯番号)		担当者 e-Mail	

申請事業の内容

事業名 (プロジェクト名)	がくまび
事業概要 (事業内容を簡単に)	西日本豪雨災害で被災した子どもたちのために、地域の人たちと一緒に、「楽しく学ぶ ぼくらの居場所」をつくること。
活動(予定)期間	2019年 11月 1日 ~ 2020年 3月 31日
活動(予定)場所	真備公民館岡田分館・菌分館
受益者数	直接受益者(20 名) 間接受益者(名) ※いる場合
<p>事業の必要性(背景)と目指すゴール(目指す状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状や支援対象者の状況(支援対象者との現在の関係性についても必要に応じて記入) ・事業を実施することで被災地や被災者がどのような状況になることを目指すのか <p>「夏休みに子どもが過ごす場所が家しかない」という保護者の声を聞いた山口大学、くらしき作陽大学、香川大学の学生が子どもの居場所づくりのための活動をはじめた。</p> <p>実際に、保護者から話を聞いたところ、被災した箭田や呉妹、川辺や岡田など異なる地区の保護者が、同じ悩みを抱えていることがわかった。「子どもを預ける場所がない」「みなし仮設に住んでいて、友達と遊べない」などといった悩みに応えるために、様々な地区で活動することにした。また、地域の人と話してわかった「子どもに自然の中で遊んでほしい」「地域の人が集まる場所をつくりたい」などの思いを形にする場所にする。</p> <p>2019年8月の活動に続いて保護者の希望により今年の冬及び春も活動継続のため申請する。</p> <p><がくまび>は、悩みを抱えている保護者や地域の人に心を寄せて、その声に最大限応える活動をする。</p> <p>その活動のなかで、子どもたちは初体験や新発見から将来につながる経験をする。そして将来、子どもたちが<がくまび>でした経験をもとに、自分の進みたい道を自分で考え、自分で選ぶことができるようになってほしい。</p>	

事業の実施内容

・どのようなことをいつ（回数等）やるのか

11月24・29日（プレ・説明会）、12月28日、1月4日の土曜日に、真備町の公民館の地域のコミュニティエリアで、ワークショップなどのプログラムを開催する。

2・3月は春休みに向けた活動を継続予定。（今後保護者の希望を確認の上で決める内容になるが合計12日間活動予定（プレ・説明会 2日、地域のコミュニティエリアでの活動 10日を想定））

（活動予定）

11月24日（土）、29日（金）プレ・説明会（@真備町公民館岡田分館）

がくまびに参加する小学生やその保護者を対象に、活動の主旨や活動内容などの説明を行う

12月28日（土）、1月4日（土）（@真備公民館岡田文館）

真備町の公民館の地域のコミュニティエリアで、ワークショップなどのプログラムを開催

※2・3月は春休みに向けた活動を継続予定。（今後保護者の希望を確認の上で決める内容になるが合計12日間活動予定（プレ・説明会 2日、地域のコミュニティエリアでの活動 10日を想定））

そのほかの日についても、大学生や地域の人がプログラムを開催して、楽しみながら創造性や協調性を育てることができるような活動をする。

事業の実施体制

・事業実施にあたり、自団体の取り組みメンバーや連携先の団体など

<がくまび>学生メンバー

寺尾朱音（テラオアカネ）	くらしき作陽大学	子ども教育学部	子ども教育学科
福井文菜（フクイアヤナ）	香川大学	創造工学部	防災・危機管理コース
魚谷祥汰（ウオタニショウタ）	くらしき作陽大学	子ども教育学部	子ども教育学科
森谷奈津美（モリタニナツミ）	くらしき作陽大学	子ども教育学部	子ども教育学科

<がくまび>連携・協力団体

ながおキッズ児童クラブ 学童指導員派遣

事業実施後の展望

- ・助成期間後も活動を継続する場合はその内容や展望
- ・助成期間をもって事業終了の場合は、その後の支援対象者の状況

夏休みが終わってからも、子どもや保護者、地域の人に心を寄せて、「楽しく学ぶ ぼくらの居場所」となるように活動を続けていく。被災の有無に関わらず、地域全体で子どもや保護者、地域に住むすべての人が、困ったときに頼りあい、助け合える関係を築けるような場を作っていく。

また、小学生や中学生、高校生も<がくまび>でプログラムの企画・運営を経験し、地域の中で自分たちにできることを考え、実行できるようにする。<がくまび>を受け継ぐ世代も一緒に活動することで、地域の人たちによって長く続く活動になることを目指している。

その他

・その他事業実施にあたり、特に必要なことやPR

<がくまび>は、立ち上げて間もない大学生主体の団体であるが、地域の声に最大限応えられるように、地域の大人と連携しながら活動している。

プログラムやワークショップでは、「まなぼう」「あそぼう」「つながろう」という思いを形にする。

初体験や新発見から自分で考え、楽しく「まなぼう」

普段経験することの少ない活動で楽しく「あそぼう」

自分の体験と自分の未来が、自分と人が楽しく「つながろう」

この思いを、子どもやプログラムやワークショップを実施する人が持って活動を続けることで、地域の人の手による<がくまび>を続けてほしい。

※今回検討の活動は、8月活動の反省も踏まえ体制としては一旦代表者は学生ではなく大人ということにするが、活動の趣旨や考え方は変わらず学生主体で実施する。(8月の反省は地域・学生を含めた関係者の連携)

※この用紙に収まらない場合は、別紙企画書など添付ください。ただし、概要についてはこのページ1枚にまとめてください。

実施予算 ※価格の根拠が分かるものなど必要に応じて添付ください。

※収入と支出の合計をあわせてください。

1) 本事業の収入

費 目	金 額	備 考
ももたろう基金	232500	
募金	50000	
合 計	282500	

2) 本事業の支出

費 目 (必要な場合算出根拠)	金 額	備 考
スタッフ昼食代 (500円×5人×10日)	25000	
保険代 (参加者傷害保険、施設所有(管理)者賠償責任保険)	15000	
消耗品(インク代)	3000	
消耗品(紙代)	500	
消耗品(その他)	5000	
おやつ代 (300円×30人×10日)	90000	
活動費 (3500×10日)	35000	
備品(救急セット、ブルーシート、運搬用具など)	30000	募金より
事務費(文房具、ホワイトボード、印刷代など)	20000	募金より
イベント代	50000	
説明会 飲み物代 (150円×30人×2日)	9000	
合 計	282500	